

イノシシ捕獲に係る取組状況について

1 田原市及び豊橋市における野生イノシシの捕獲頭数について（表 1、図 1）

2023年度2月末時点の野生イノシシの捕獲頭数は、豊橋市272頭（前年度同時期：197頭）、田原市359頭（同：189頭）となっている。

豊橋市、田原市ともに前年度と比べ増加しており、2021年度以降、捕獲頭数は増加傾向にある。特に田原市では、2023年度から新規捕獲者の参入等もあり、大幅に捕獲頭数が増加している。

また、県が田原市内で実施している指定管理鳥獣捕獲等事業による捕獲頭数は、従来使用していた箱わなを囲いわな（Pig Brig）に変更した事もあり、15頭（同：47頭）となっている。

表 1 野生イノシシの捕獲頭数の経年推移（頭）

市／年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023*	
豊橋市	297	268	165	121	210	272	
内訳	有害	251	220	160	111	198	272
	狩猟	46	48	5	10	12	-
田原市	277	497	270	125	212	359	
内訳	有害	271	492	204	87	160	344
	指定管理	未実施	未実施	66	35	47	15
	狩猟	6	5	0	3	5	-
計	574	765	435	246	422	631	

※2023年度は2月末時点の速報値

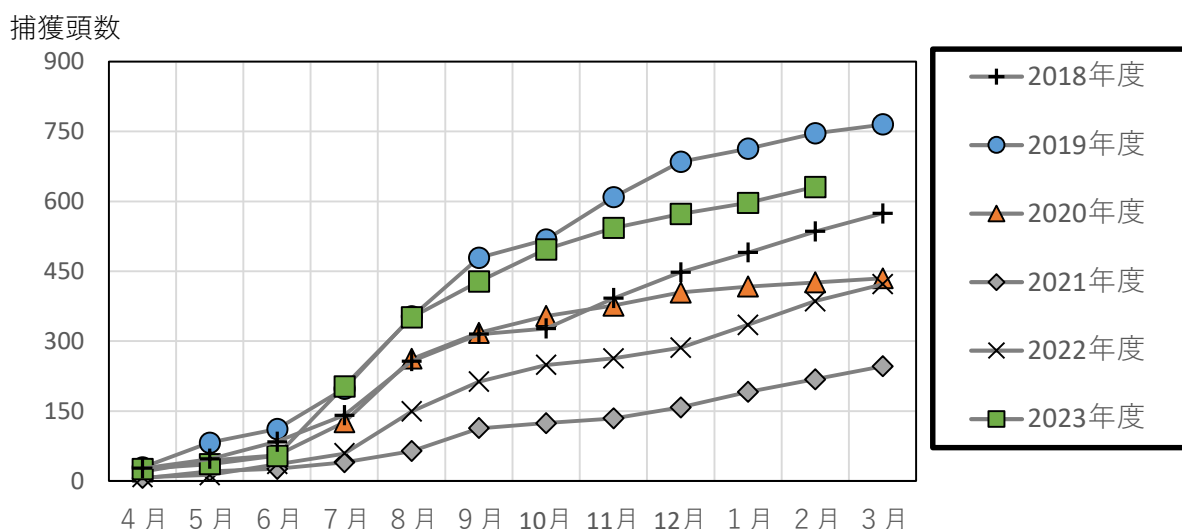


図 1 田原市及び豊橋市における野生イノシシ捕獲頭数の経年推移
(捕獲数の月別積上推移)

2 捕獲イノシシの歯列調査等結果（図2～4）

捕獲野生イノシシの歯列による年齢査定を行った所、2023年度の成獣（1歳以上）の割合は田原市、豊橋市共に約5割程度で、直近はやや横ばいの傾向にある。また、事業・猟法別に捕獲イノシシの成・幼獣の割合を見ると、箱わなと比べ、囲いわな、くくりわなの方が成獣の捕獲割合が高い傾向にある。

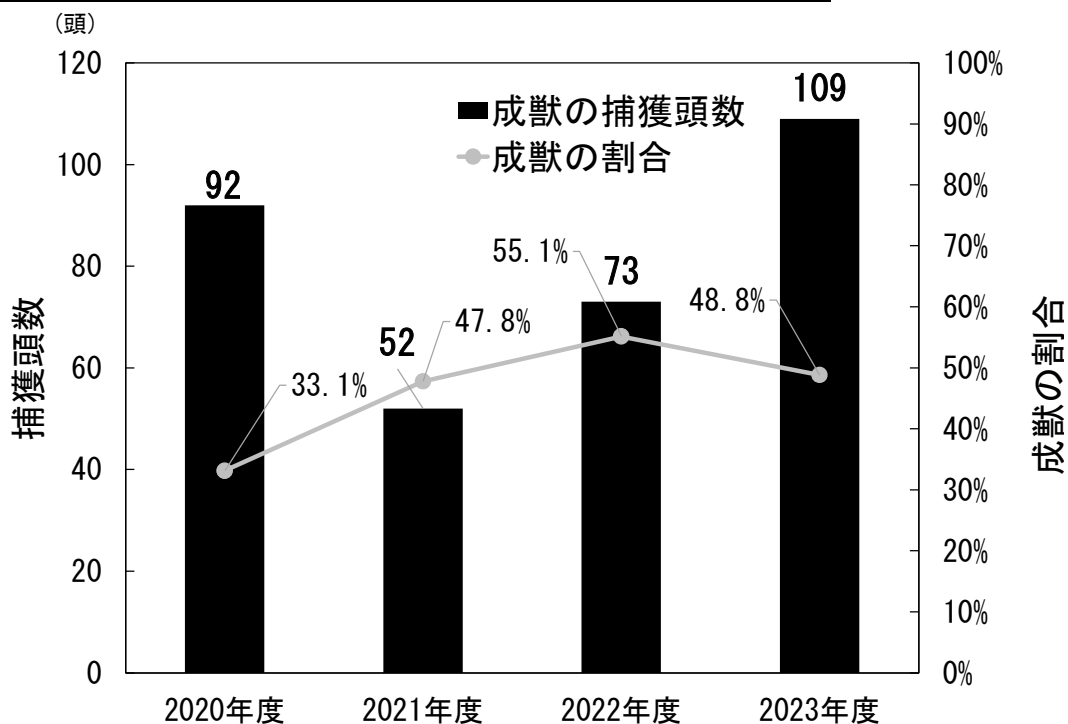


図2 捕獲イノシシ（成獣）の頭数及び割合の推移（田原市）※1.※2

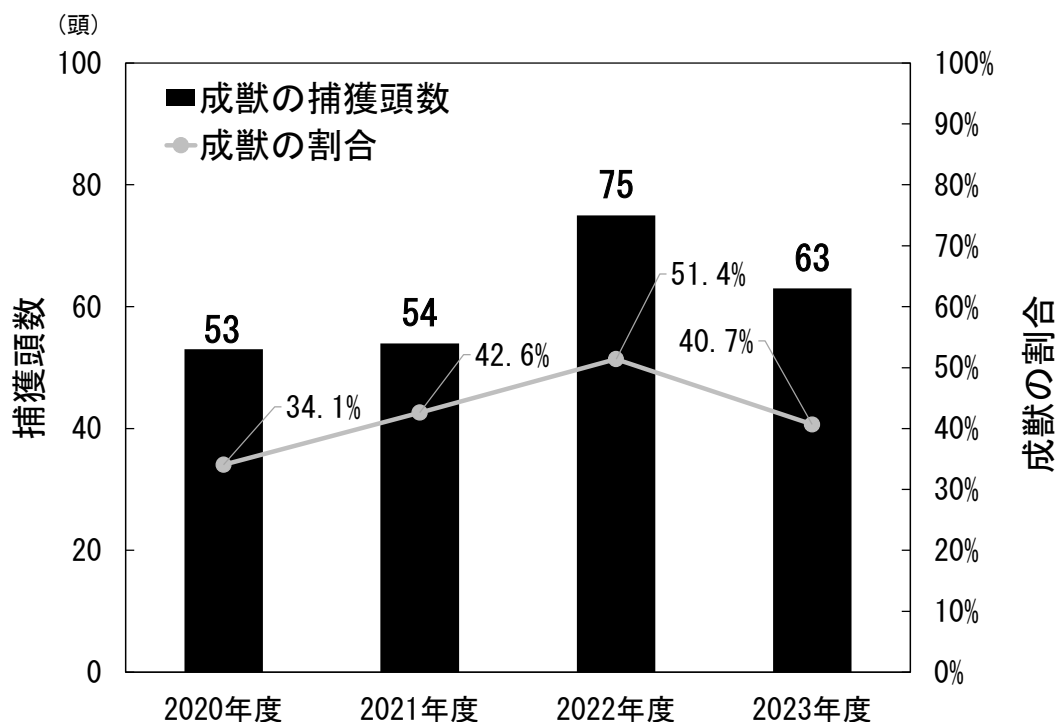


図3 捕獲イノシシ（成獣）の頭数及び割合の推移（豊橋市）※1.※2

※1 歯列調査中、歯列写真の無いものは含まない

※2 2023年度については、2月末時点の速報値

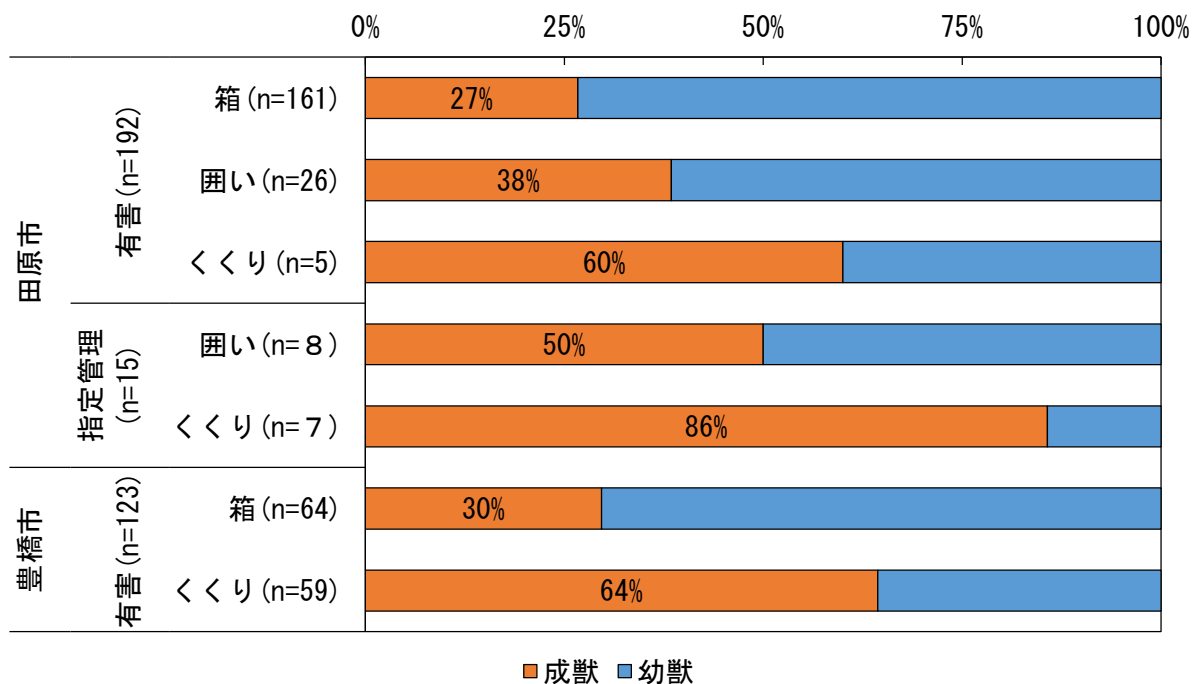


図4 捕獲イノシシの事業・猟法別の成・幼獣比の割合

3 30kg 以上のメスの捕獲効率について（資料1-2）

豊橋市及び田原市において2023年度に捕獲された野生イノシシのうち、妊娠可能と考えられる30kg以上のメスの毎月の捕獲頭数について、わな種別の捕獲頭数と全体の捕獲数に占める割合をとりまとめた。

2023年度は、2月末時点で30kg以上のメスの捕獲効率が2022年度とほぼ同様に推移している。また、7～12月にかけて、捕獲頭数が一旦減少していた2020年度以降で最も多く30kg以上のメスが捕獲されている。

例年、1～3月は30kg以上のメスの捕獲効率、捕獲頭数がともに高くなる時期であり、およそ半数がくくりわなの捕獲によるものである。このため、1～3月にくくりわなの設置数を増やす事で、春期の再繁殖を抑える効果が期待できると考えられる。

4 大山山塊分断柵の設置効果（資料1-3）

移動防止柵を設置した令和2年度及び令和3年度にかけて、全てのユニットにおいて捕獲数は大きく減少している。移動防止柵の効果が一定程度あると思われる。しかし、令和3年度から令和4年度にかけ、捕獲数に回復傾向が見られる。令和4年度は、令和元年度比で32.7%となっている。

5 その他（資料1－4）

県内の野生イノシシの豚熱陽性個体の確認状況について、2023年度は2月末時点で19件と、2022年度の28件（前年度同時期、通年でも28件）と比べ、やや減少している。豊田市や、瀬戸市、春日井市、犬山市等の尾張地域で確認されており、これまで豚熱陽性個体が確認されていなかった小牧市においても野生イノシシから豚熱陽性が確認されている。なお、2023年度の2月末時点の検査個体数は894頭であり、陽性率は2.1%となっている。

県内の地域ごとの捕獲頭数について、2023年度2月末時点では、東三河地域を除き、2022年度と比べ減少傾向にある。東三河地域は、過去3ヶ年度と比べ捕獲頭数が増加傾向にあり、特に田原市において顕著である。